

# 八幡工高新聞

発行者：滋賀県立  
八幡工業高校新聞部

建築同好会  
県とコラボで  
大活躍号



## うみのこ常設展示スペース開設 高橋館長「それぞれの目線で楽しんで」

琵琶湖博物館は、6年の歳月をかけて2020年10月10日にリニューアルオープンした。館長の高橋啓一さんは「調査をして新たにわかったことを従来の展示に追加したり、新たな展示も工夫し、来館された方々に楽しんでもらえる展示になるよう注目して改装した」と話された。

館内には琵琶湖の水位を実際に測っていた量水板も展示されており、小さなお子さんが並んで立ち、計測して楽しんでいる様子が伺えた。

「いろいろな年代の楽しみ方がある。一人一人違った目的で来館して、それぞれの目線で楽しんでほしい」とのこと。

現在、新型コロナ対策で入館は完全予約制。予約は一ヶ月前から可能。ネット予約、当日予約もできる。なかなか遠出も難しい昨今、近場のお出かけ先に琵琶湖博物館は超オススメです。建築同好会力作の椅子の座りごこちも確かめに行こう。



▲福永教育長から感謝状を贈られる副部長坂本くん(左)と部長安地川くん(右)

## 建築同好会 教育長より感謝状贈呈 旧うみのこ甲板で椅子を製作・寄贈 琵琶湖博物館



中辻校長先生

顧問の佐野先生

館長の高橋さん

教育長の福永さん



リフォームした椅子▲  
皮の座面を外し、旧うみのこの甲板に張り替えた

◀旧うみのこの甲板を使用して  
一から製作した椅子



福永教育長と高橋館長に質問する建築同好会一同▲

高校生の質問に答えてくださる

滋賀県教育長 福永忠克さん(左)▶

琵琶湖博物館館長 高橋啓一さん(右)▶



▶うみのこ常設展示スペースで記念撮影する建築同好会一同。天井には滋賀県の小学校校旗がズラリと飾られている。

滋賀県の依頼を受けて、建築同好会が昨年秋から椅子の製作に取り組んだ。琵琶湖博物館の「学習船うみのこ常設展示スペース」用の椅子だ。1月26日に琵琶湖博物館で、感謝状贈呈式が行われた。

### 教育長ANSER! 「学校の中だけではなく社会を見て 自分が協力できることを見つけてほしい」

滋賀県教育委員会教育長の福永忠克さんとお話する機会をいただいた。本校建築同好会に椅子の製作を依頼した福永教育長。理由は「県が色々なことをする時に、学生と一緒にやりたい」ということに加えて「学生に、学校の中だけではなく社会を見て、自分が協力できることを見つけてほしい」と思ったからだそうだ。

さらに「学生の皆さんが社会で生きる力を育てたい。勉強・健康・豊かな心を育てることが教育だ。皆さんが成長し、社会での活躍を見られることが、教育という仕事の魅力だ」とご自身の仕事や教育に対する考え方を穏やかな口調で語られた。

コロナ禍のなか注目が集まるオンライン授業について滋賀県はどうなるのか、との学生の問いに対して「プリントではなく双方向で学習できることがオンライン授業の良い所だが、対面での学びも重要で、この二つを駆使して学びの体制をつくっていききたい。学生には、情報を見分ける力、考える力を身に付けてほしい」と取り組みの考えを話された。

「社会人になるための心構えは何ですか」という質問に対しては「学校で学んだことだけではなく、人との関わり、繋がりを大切にすること。自分をアピールできて、更なる人の話・意見をしっかりと聞くことが重要ですよ」とアドバイスをくださった。

## おいしい琵琶湖・滋賀を味わう「にほのうみ」

琵琶湖博物館内にあるミュージアムレストラン「にほのうみ」では、琵琶湖を眺めながら湖魚・地元野菜・近江米など滋賀の美味しい食材を使ったここでしか味わえないオリジナルメニューを食べることができる。

新聞部記者がニジマスとブラックバスが使われている「湖の幸の天ぷらうどん」「湖の幸の天井」を注文し、食べてみた。

ブラックバスは臭みがあり食べられないと思う方も多いだろう。だが実際食べてみると普通の白身魚となんのかわりもないのだ。ホールスタッフの方にお話を聞くと、調理するにあたり

ブ塩を使用し、完全に臭みを消す。一般家庭の下処理でここまで臭みを消すのは難しいだろう。「恐らく言われなかったら普通の白身魚と思われるでしょう」という驚きのメニューだ。

まさにその通りで白身魚と何ら変わらない味で美味しくいただいた。言われないと気が付かないと誰もが思うはず。まさに琵琶湖の逸品だ。

展示を楽しんで、滋賀の味を満喫できる琵琶湖博物館に是非足を運んで欲しい。(月・川・竜)



竜

川



▲湖の幸の天ぷらうどん  
▼湖の幸の天井

